

第3章 東広島市の文化財の総合的な把握

文化財の総合的な把握については、『西条町誌』、『川上村史』等の旧町史などで調査・把握された文化財のリスト化を行ったほか、本市において平成9年から継続している文化財基礎調査（以下、基礎調査という。）の成果をもとに文化財の把握、整理を行った。

第1節 基礎調査の手法と事業実施の流れ

1 基礎調査の手法

本市における文化財基礎調査は、平成9年に各分野の専門家による文化財基礎調査会を結成したことに始まり、市からの委託によって文化財の悉皆調査を継続して実施している。

その手法については、文化財の種類、種別によって異なり、調査会がそれぞれの文化財の詳細な調査を実施する場合と、学生や地元郷土史研究会員による所在等を把握するための1次調査を経て、その中から選択的に2次調査を実施した場合とがある。

2段階の調査を実施した文化財には、古文書、石造物、社寺什物、近代化遺産がある。

		H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
1	滝																					
2	古文書																					
3	石造物																					
4	ため池(水生植物)																					
5	社寺什物																					
6	巨樹																					
7	動物 (昆虫、魚類、貝類、両生類、爬虫類、鳥類、ほ乳類)																					
8	民俗																					
9	近代化遺産																					

図 3-1 既往の文化財基礎調査

そのほか、文化財基礎調査会結成以前の調査に社寺建築調査、民家調査があり、それぞれ報告書にまとめている。

2 基礎調査の成果

基礎調査の対象とした文化財は多岐にわたるが、ここではそれぞれの調査によって明らかとなった本市の文化財の特徴と分布傾向を調査の成果としてまとめておきたい。

まず、社寺建築調査であるが、小祠・小堂に至るまで網羅的な1次調査を実施し、その後、その一部について2次調査を実施した。その結果、室町時代の建築4棟のほか、旧市だけで江戸時代の社寺建築が193棟確認され、18世紀代の建物に限っても108棟に及ぶことが明らかになった。中世の建築物は、福成寺本堂内厨子及び須弥壇が国重要文化財(平成12年指定)、観現寺厨子が県指定重要文化財(平成4年指定)、慶雲寺観音堂厨子(平成9年)、

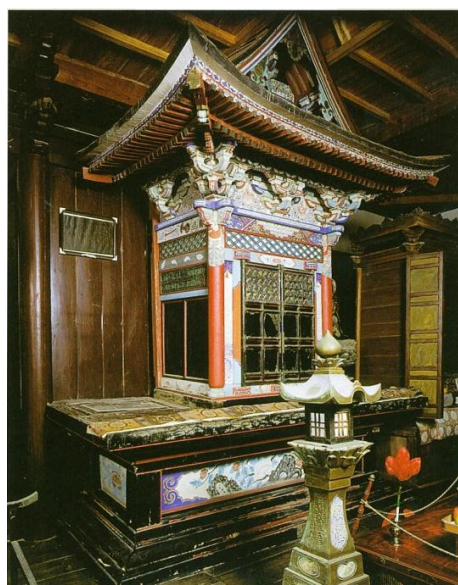


写真 3-1 重要文化財 福成寺本堂内厨子及び須弥壇 (西条町)

國分寺仁王門(平成11年)が市の指定文化財に指定されている。

民家調査は、2次調査を広島大学に依頼し、対象を明治10年以前の農家に限定して実施した。年代の古いものでは17世紀後期の畠迫家などがあるが、明治期に大規模な改変を受けた建物が多く、保存状態のよい建物は18世紀末から19世紀に下る。時代とともに建物の規模は大きくなり、19世紀前期には表側の部屋が広く

なるなど、地域全体に経済的ゆとりがでてきたことなどが指摘されている。この

中からは、純粋な農家ではないが、1797年建築の並瀧寺庫裏が市の重要文化財に指定されている(平成29年指定)。並瀧寺庫裏は桁行10間、梁間6間の大規模な建築であり、庫裏であるため仏堂内陣に相当する地蔵殿と其前方に礼拝の場である仏間が存在する。

酒蔵調査は近代化遺産調査の一環として行った調査である。本市の歴史文化の特徴の一つである酒造業に係る建造物について平成13～14年度、平成16年度～17年度にかけて詳細な調査を実施した。



写真 3-2 市重要文化財 並瀧寺庫裏(志和町)



写真 3-3 登録有形文化財 西條鶴醸造角屋(西条本町)

その成果は『東広島市の酒蔵』(平成25年刊)としてまとめられたが、それをもとに、平成28年、29年に合計72件の酒造関連施設が登録有形文化財に登録されている。



写真 3-4 登録有形文化財 白牡丹酒造延宝蔵南端棟(西条本町)

滝の悉皆調査は平成9年から平成10年にかけて11か所の滝を対象に実施された。広島県内の滝については江戸時代の天明年間(1781～1789)頃に広島藩の絵師岡岷山によって描かれた絵巻が残されているなど、古くから名勝として観賞の対象とされ、また、多くが伝説の舞台ともなっている。このような滝の特性から、基礎調査では、地質調査を中心に伝説や歴史的な面からも調査を実施した。地質的な成果から一部を紹介すると、市内の滝は盆地の底部に位置する滝と山岳部に位置する滝とに分けられる。盆地底部のものは盆地の基盤となる花崗岩の露出部に位置し、緩やかな傾斜となるナメタ滝が多い。山岳部のものは、賀茂台地の浸食面の谷頭浸食を進めているところに位置するものが多く、比較的規模の大きいものがあることが特徴である。



写真 3-5 吾妻子の滝(西条町)

石造物の調査は、平成10、11年度及び平成15～20年度に実施したものである。対象を信仰や宗教に関するものに絞り、近世以前の記年銘のあるものを中心に調査し、成果を『東広島市の石造物』(平成27年刊)としてまとめている。なお、墓石については原則として除外している。確認された石造物は、宝篋印塔、五輪塔、板碑、石槽、磨崖碑、石鳥居、石造狛犬、石造狐、水盤、注連柱、石祠、石灯籠、石仏、石階、玉垣、石碑、石門などがある。変わったところでは江戸時代末期の尾道石工による石造人物座像が確認されている。この内、高屋町頭崎神社の石造本殿が市の重要文化財に指定されている(平成28年指定)。

第2節 基礎調査の課題と展望

本市の文化財基礎調査は、文化財の所在とその価値を明らかにする上で大きな成果を挙げたといえる。ただし、その成果の活用という点では課題も大きい。調査した文化財のうち、文化財指定等により保護の網がかけられたものは全体から見ればごく一部である。調査によって明らかになった文化財を維持・管理する体制づくりも課題である。分野によっては報告書という形で公になっている文化財もあるが、文化財が所在する地域の住民すら文化財の存在することを知らない人も多いと思われる。基礎調査の成果を市民が知る機会がなければ活用に結びつかないことは自明である。基礎調査の成果を周知するための方策をとることはもちろんであるが、地域活動に携わる地域のできるだけ多くの人々が基礎調査に参加することが基礎調査とその成果に対する興味・関心を集める方法の一つとして考えられる。

また、近代和風・洋風建築や食文化など、これまでに基礎調査の対象となっていない文化財へ対象を広げることや、既に基礎調査を実施した文化財の補足調査やさらに掘り下げた詳細な調査を行うことが必要である。例えば社寺什物調査などは神・仏像、獅子・狛犬、仏具・祭祀具などカテゴリ一別に再調査を実施することが考えられる。

今後、文化財の総合的把握として基礎調査を継続していくには、市民の参加のもと、地域住民を主体とした基礎調査を実施し、その後専門家による詳細調査を行うというような新たな調査体制の構築が不可欠であろう。そのような体制が構築できれば、基礎調査を進めること自体が文化財の保存・活用の重要な部分を占めることになると考えられる。

第3節 住民に対する歴史文化に関するアンケート調査

1 住民自治協議会に対するアンケート調査

住民に対する歴史文化に関するアンケート調査は、47ある住民自治協議会に対する調査と市の住民台帳から各地区の人口比率に応じて無作為に抽出した1000人の市民に対する調査の2つのアンケート調査を実施した。

(1) 調査の概要

① 調査の目的

地域に存在する文化財を指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて的確に把握し、東広島市の文化財保護行政に正しく位置づけるとともに、市内及び東広島市に關係する文化財を総合的に活用するための基本的な構想「東広島市歴史文化基本構想」策定の参考とするために、地域に存在するこれまであまり知られていない歴史や文化財、人々が大切に感じている歴史や文化財、各自治協議会単位で取り組んでいる活動とその内容を中心に実態を把握し、構想の策定に反映させることをねらいとした。

② 調査対象・調査方法

ア 調査対象 ○市内の住民自治協議会 47団体

イ 調査方法 ○記名のアンケート調査方式

ウ アンケートの配布 ○まちづくりトークでの配布

回収の方法 ○郵送にて回収

③ 調査期間 ○平成29年2月3日（火）～3月31日（金）

(2) 調査の結果 （※巻末資料参照）

47の住民自治協議会に対しアンケート調査を実施し、回答があったのは35件。回答率は74.4%であった。回答の内容は別表にまとめてあるが、住民自治協議会ごとに回答内容はまちまちである。設問の意図がわかりにくいという点も考慮する必要がある。

設問1の地域に存在する文化財については、数多くの文化財を挙げた自治協議会と代表的な文化財のみを掲げた自治協議会、無記入の自治協議会の3様であった。

設問2の地域の人々が大切に感じている歴史的・文化的遺産については、記入している住民自治協議会の多くが、文化財・文化遺産に対して何らかの活動を行っている自治協議会である。その内容には、文化財の説明看板や史跡等の遊歩道整備、文化財を含むまち巡りマップの作成、ウォーキングやハイキングの開催などがある。これらの活動は全て住民自治協議会の自主的な活動であるところに特徴がある。設問4の今後計画あるいは実施したいと考えている活動も上記活動と内容的にはほぼ同様のものが検討されている。

設問5では、歴史的・文化的遺産を活かしたまちづくりが住民にどのような影響を与えるかという点については、多くの住民自治協議会が、①「郷土に対する誇り、愛着を育てる」②「コミュニティの維持・活性化につながる」④「地域のイメージ及び魅力の向上」に効果があると考えていることがわかる。また、これに加えて③「学校教育や生涯学習の充実につながる」を選ぶ住民自治協議会も一定数あり、地域の特徴を次世代に伝える上で歴史的・文化的遺産が有効であると考えていることを示

している。

自由記述の設問 6「その他」には、文化財、歴史的・文化的遺産に係る専門的な知識の面で教育委員会の協力を求める意見も見られた。上記の住民自治協議会の活動は全て独自の自主的な活動であり、市の文化財当局が関与したものではない。しかし、多くの住民自治協議会が期待する歴史的・文化的な遺産をまちづくりに活かす上で、市が積極的にこれに関与することは大きな効果を生むと考えられる。「東広島市歴史文化基本構想」の策定をきっかけに市民との協働で歴史文化をまちづくりに活かす仕組みづくりが求められていることが、このアンケート調査で明らかになったと結論付けられる。

2 市民に対するアンケート調査

(1) 調査の概要

①調査の目的

東広島市には、国の重要文化財をはじめ数多くの指定された文化財がある。

また、指定されていないが、文化的に貴重な建造物、美術工芸品、伝統行事や技術、風俗文化、自然の景観といった数多くの歴史的・文化的資源が、地域に根付いていると考えられる。

こうした地域の資源、つまり文化財に対して、また文化財の保護や活用に対しての地域住民の意識を把握するために、無作為に抽出した東広島市民 1,000 人に対してアンケート調査を実施した。

この調査は、東広島市の文化財を総合的に把握し、保存・活用について検討し、具体的に取り組んでいくことをねらいとしている。

②調査対象・調査方法

ア 調査対象

○地域の人口割に応じて、無作為に抽出した東広島市民 1000 人
(18 歳以上)

イ 調査方法

○原則、無記名のアンケート調査方式

ウ アンケートの配布

回収の方法

○配布、回収ともに郵送

③調査期間

○平成 29 年 6 月 6 日（火）～6 月 30 日（金）

(2) 回答状況

表 3-1 地域別の回答者数と回答率

地域	送付数	回答数	回答率
西条	387	199	51.4%
八本松	150	83	55.3%
志和	39	2	5.1%
高屋	167	76	45.5%
黒瀬	130	36	27.7%
福富	14	13	92.9%
豊栄	20	1	5.0%
河内	35	5	14.3%
安芸津	58	20	34.5%
不明	—	20	
合計	1000	455	45.5%

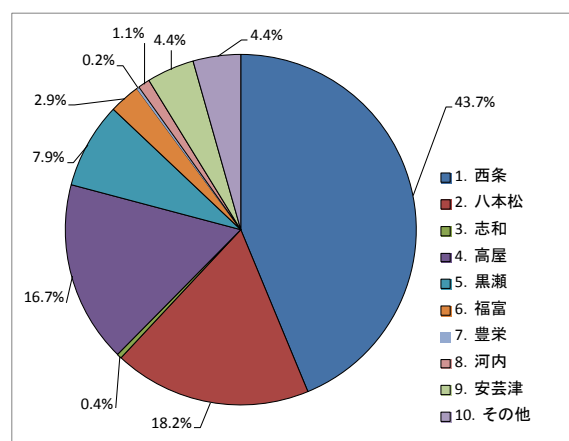


図 3-2 回答者の地域別の比率

回答率は「福富」が最も高く 92.9%（14 人中 13 人が回答）、以下「八本松」55.3%、「西条」51.4%の順であった。また、「志和」5.1%、「豊栄」5.0%と回答率は少なかった。

回答率が低い地域があった理由としては、「回答を忘れていた」、「アンケートの内容に対して特に興味がなかった」等、電話での無差別の聞き取り調査で明らかになった。

東広島市の企画課が行っている市民満足度調査と比較してみると、今回のアンケート調査で回答率が低かった地域においても、例えば「志和」43.4%、「豊栄」63.5%など、回答率が高かった。

今回の文化課が行ったアンケートでは、人口の割合で送付しているため、回答数が少ない地域の送付数自体が少ない。よって、上記のような電話回答が志和や豊栄においてあったとはいえ、一概に回答率がすくない地域の住民が、文化財への関心が総じて薄いとはいえない。しかし、回答率がすくないのも事実であるので、こういった地域の文化財への関心を高めていくことが求められている。（以上「図 3-6」「表 3-2」）

(3) 調査結果

① 市民が興味を持っている歴史文化

「歴史小説を描いた TV 番組（53.6%）」が最も多く、以下「史跡（城や遺跡等）（51.6%）」、「博物館や美術館の鑑賞（40.4%）」、「その土地の古くから伝わる名産や郷土料理（37.8%）」の順であった。一方で「特になし」が 8.4%あった。

「その他」の中には、日本史関連の書籍（小説以外）、歴史マンガがあった。（以上「図 3-3」）地域別に見ると、全体で 2 位の「史跡（城や遺跡等）」の回答率が高かったのは「黒瀬（63.9%）」、「高屋（53.9%）」、「西条（51.3%）」だった。3 位の「博物館や美術館の鑑賞」の回答率が最高だったのは「西条（44.7%）」、続いて「高屋（42.1%）」、「八本松（39.8%）」の順であった。

5 位の「名勝・伝統的景観」の回答率が最高だったのは「西条（39.2%）」、続いて「黒瀬（38.9%）」だった。（以上「表 3-2」、回答数が寡少なため志和・豊栄・河内の地区割合は記載していない。）

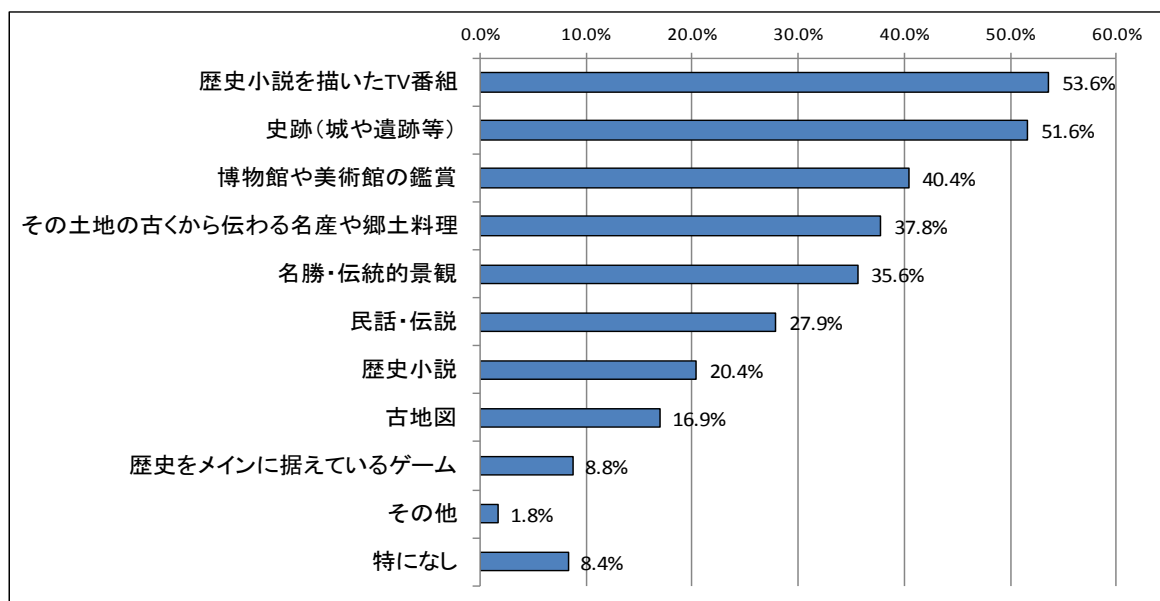


図 3-3 歴史文化に関する市民の興味事項（複数回答可）

表 3-2 地区別 歴史文化に関する市民の興味事項

(複数回答可)

選択項目	総計		1. 西条		2. 八本松		3. 志和		4. 高屋		5. 黒瀬		6. 福富		7. 豊栄		8. 河内		9. 安芸津		10. その他	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
歴史小説を描いたTV番組(ドラマやドキュメンタリー等)	244	53.6%	110	55.3%	46	55.4%	1	50.0%	38	50.0%	21	58.3%	5	38.5%		0.0%	4	80.0%	10	50.0%	9	45.0%
史跡(城や遺跡等)	235	51.6%	102	51.3%	40	48.2%	2	100.0%	41	53.9%	23	63.9%	6	46.2%		0.0%	1	20.0%	9	45.0%	11	55.0%
博物館や美術館の鑑賞	184	40.4%	89	44.7%	33	39.8%	1	50.0%	32	42.1%	14	38.9%	5	38.5%		0.0%	1	20.0%	6	30.0%	3	15.0%
その土地の古くから伝わる名産や郷土料理	172	37.8%	80	40.2%	29	34.9%		0.0%	31	40.8%	14	38.9%	5	38.5%		0.0%	1	20.0%	6	30.0%	6	30.0%
名勝・伝統的景観	162	35.6%	78	39.2%	26	31.3%	1	50.0%	24	31.6%	14	38.9%	4	30.8%		0.0%	1	20.0%	7	35.0%	7	35.0%
民話・伝説	127	27.9%	51	25.6%	26	31.3%	2	100.0%	26	34.2%	9	25.0%	1	7.7%		0.0%	1	20.0%	4	20.0%	7	35.0%
歴史小説。	93	20.4%	35	17.6%	14	16.9%	2	100.0%	19	25.0%	8	22.2%	3	23.1%	1	100.0%	1	20.0%	2	10.0%	8	40.0%
古地図	77	16.9%	33	16.6%	12	14.5%		0.0%	16	21.1%	6	16.7%	2	15.4%		0.0%	1	20.0%	3	15.0%	4	20.0%
歴史をメインに据えているゲーム	40	8.8%	16	8.0%	7	8.4%		0.0%	9	11.8%	1	2.8%	1	7.7%		0.0%	2	40.0%	2	10.0%	2	10.0%
その他	8	1.8%	4	2.0%	1	1.2%		0.0%	1	1.3%	1	2.8%		0.0%		0.0%		0.0%	1	5.0%		0.0%
特になし	38	8.4%	20	10.1%	6	7.2%		0.0%	7	9.2%	2	5.6%		0.0%		0.0%		0.0%	2	10.0%	1	5.0%
合計	1380	303.3%	618	310.6%	240	289.2%	9	450.0%	244	321.1%	113	313.9%	32	246.2%	1	100.0%	13	260.0%	52	260.0%	58	290.0%
無記入者数	4	0.9%	3	1.5%	1	1.2%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
回答者数(N)	455	100.0%	199	100.0%	83	100.0%	2	100.0%	76	100.0%	36	100.0%	13	100.0%	1	100.0%	5	100.0%	20	100.0%	20	100.0%

【考察】

「歴史小説を描いた TV 番組 (53.6%)」が最も多くなった要因としては、テレビ等のメディアが、地域住民の歴史文化の意識へ大きく影響していることがうかがえる。

また、次ぐ「史跡(城や遺跡等) (51.6%)」の割合も高いことから、東広島に存在する代表的な城跡や古墳などへの、住民の関心が高いことも分かる。西条地区の三ツ城古墳や鏡山城跡、高屋地区の白山城跡、頭崎城跡など、国や県の指定を受けているものがあることも、関心の高さの要因であろう。今後史跡の保存だけでなく、史跡をどう活用していくのかが文化財への住民の意識を高めていくために重要と考えられる。

「博物館や美術館の鑑賞 (40.4%)」も割合が高かった。地区別では、現在美術館のある八本松、新たに美術館を建設する西条などが高く、これは施設見学を通して、住民が歴史文化へ触れている機会が多いことを示している。地域住民が歴史文化に触れることが出来る場を創出していくことが重要であることが分かる。また、施設見学だけでなく、実際の文化財見学へとつなげていくルートづくり、文化財関連施設での展示の工夫なども重要と考えられる。

「その土地の古くから伝わる名産や郷土料理 (37.8%)」の割合の高さをみると、東広島の歴史文化をみる上で、「酒」文化は外せない要素であることも考えられる。東広島の住民の意識の中に、酒文化が大きく関わってきたのは間違いなく、活用の仕方次第では文化財への意識を高めてくれるものになると考えられる。

② 市民が接する機会の多い文化財・文化遺産

「観光旅行 (76.3%)」が最も多く、以下「テレビやラジオの番組 (69.9%)」「新聞・雑誌 (37.1%)」「博物館等の文化施設 (35.4%)」の順であった。一方で「関心はあるが機会はない」は 4.4%、「関心も機会もほとんどない」は 4.0%と少数であった。

「その他」の中には、ウォーキングの途中、(観光ではない) 文化財等目的を持った旅行、出張、神社仏閣への参拝があった。(以上「図 3-4」)

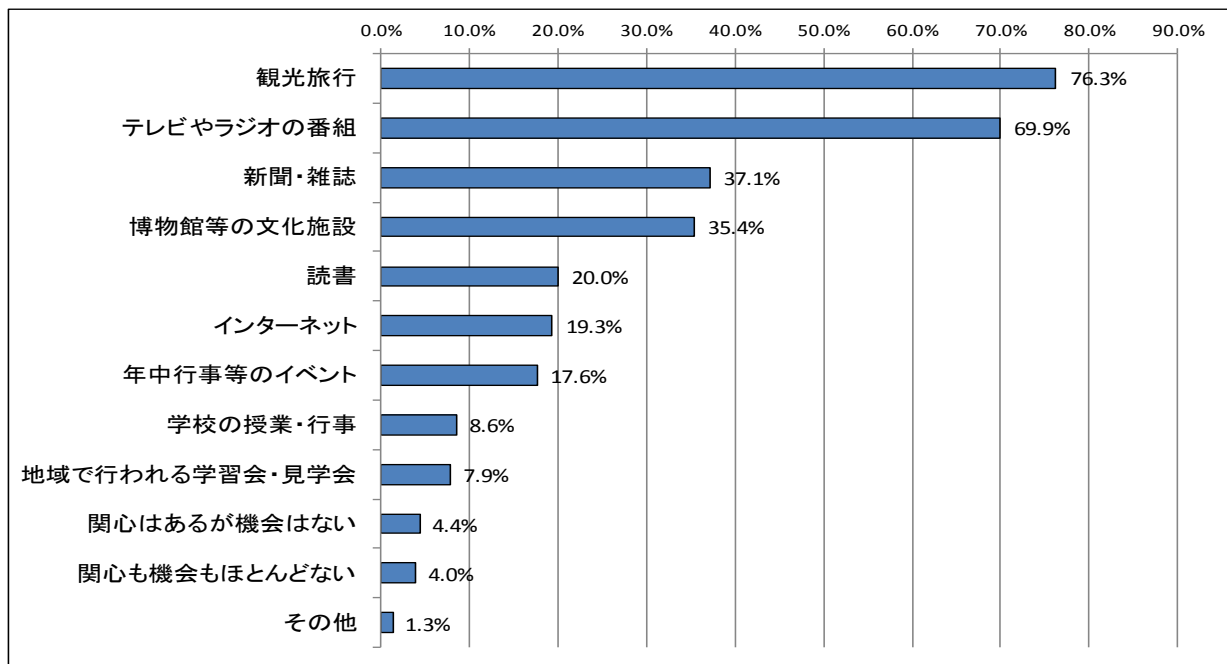


図 3-4 市民が接する機会が多い文化財・文化遺産 (複数回答可)

表 3-3 地区別 市民が接する機会が多い文化財・文化遺産 (複数回答可)

選択項目	総計		1. 西条		2. 八本松		3. 志和		4. 高屋		5. 黒瀬		6. 福富		7. 豊栄		8. 河内		9. 安芸津		10. その他	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
観光旅行	347	76.3%	153	76.9%	63	75.9%	2	100.0%	61	80.3%	27	75.0%	9	69.2%	1	100.0%	3	60.0%	13	65.0%	15	75.0%
テレビやラジオの番組	318	69.9%	134	67.3%	58	69.9%	2	100.0%	51	67.1%	26	72.2%	8	61.5%		0.0%	5	100.0%	18	90.0%	16	80.0%
新聞・雑誌	169	37.1%	61	30.7%	37	44.6%	1	50.0%	31	40.8%	16	44.4%	4	30.8%		0.0%	3	60.0%	12	60.0%	4	20.0%
博物館等の文化施設	161	35.4%	72	36.2%	31	37.3%	1	50.0%	27	35.5%	16	44.4%	5	38.5%		0.0%		0.0%	4	20.0%	5	25.0%
読書	91	20.0%	37	18.6%	15	18.1%		0.0%	23	30.3%	5	13.9%	1	7.7%		0.0%		0.0%	2	10.0%	8	40.0%
インターネット	88	19.3%	40	20.1%	17	20.5%		0.0%	12	15.8%	5	13.9%	3	23.1%		0.0%	3	60.0%	4	20.0%	4	20.0%
年中行事等のイベント	80	17.6%	38	19.1%	13	15.7%		0.0%	18	23.7%	4	11.1%	1	7.7%		0.0%		0.0%	5	25.0%	1	5.0%
学校の授業・行事	39	8.6%	19	9.5%	8	9.6%		0.0%	9	11.8%	1	2.8%		0.0%		0.0%	1	20.0%	1	5.0%		0.0%
地域で行われる学習会・見学会	36	7.9%	10	5.0%	7	8.4%	1	50.0%	8	10.5%	3	8.3%	2	15.4%		0.0%	1	20.0%	4	20.0%		0.0%
関心はあるが機会はない	20	4.4%	8	4.0%	3	3.6%		0.0%	1	1.3%	1	2.8%	1	7.7%		0.0%		0.0%	3	15.0%	3	15.0%
関心も機会もほとんどない	18	4.0%	9	4.5%	4	4.8%		0.0%	1	1.3%	1	2.8%	1	7.7%		0.0%	1	20.0%	1	5.0%		0.0%
その他	6	1.3%	3	1.5%		0.0%		0.0%	1	1.3%	1	2.8%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	5.0%
合計	1373	301.8%	584	293.5%	256	308.4%	7	350.0%	243	319.7%	106	294.4%	35	269.2%	1	100.0%	17	340.0%	67	335.0%	57	285.0%
無記入者数	0	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
回答者数(N)	455	100.0%	199	100.0%	83	100.0%	2	100.0%	76	100.0%	36	100.0%	13	100.0%	1	100.0%	5	100.0%	20	100.0%	20	100.0%

地域別に見ると、全体 2 位の「テレビやラジオの番組」の回答率が最高だったのが「安芸津 (90.0%)」で、3 位の「新聞・雑誌」も同様に「安芸津 (60.0%)」が最も高かった。一方、4 位の「博物館等の文化施設」では「黒瀬 (44.4%)」が最も高く、5 位の「読書」は「高屋 (30.3%)」がそれに続いた。(以上「表 3-3」、回答数が寡少なため志和・豊栄・河内の地区割合は記載していない。)

【考察】

地域住民が文化財・文化遺産に最も触れる機会が多いのは「観光旅行（76.3%）」だが、これはつまり、東広島以外の場所の文化財・文化遺産に触れる機会が多いということである。逆を言えば、他県や外国からの観光客が東広島の文化財に触れる機会が多くなることで、文化財が観光資源としてみられ注目度が高くなり、地域住民からの関心もおのずと高まってくることも考えられる。ここからも、文化財の保存だけでなく、活用することの重要性が分かってくるといえる。

「テレビやラジオの番組（69.9%）」が次いで触れる機会として挙げられているが、東広島の文化財等が取り上げられれば、大きな効果が期待できると考えられる。「新聞・雑誌（37.1%）」にも言えることだが、メディアを利用することが、住民が文化財に触れる機会を増やすことにつながり、これはアンケートの設問①の結果からも分かる。

「博物館等の文化施設（35.4%）」で文化財に触れる機会が多いことから、設問①でも述べたように、住民が歴史文化に触れることが出来る場を創出していくことが、この結果からも重要と分かる。

一方で、「関心も機会もほとんどない」は4.0%と少数であることから、無作為抽出とはいえ、ほとんどの住民の文化遺産・文化財への関心度が高いことが分かる。

③ 市民が思い浮かべる東広島の歴史・文化

「西条の酒蔵のある風景（91.0%）」が際立って多く、以下「東広島の赤瓦屋根の民家群（45.3%）」、「古墳のある風景（32.7%）」、「盆地に水田が広がる風景（25.3%）」、「カキ筏の浮かぶ海（23.3%）」の順であった。

「その他」の中で他の選択肢に含まれないものは、鏡山城跡地・桜、山陽道と宿場町跡、古戦場・砦跡、高屋の白島神社と山からの眺望、福成寺の本堂、エゴマの栽培・搾油、深山変電所、広島大学などであった。（以上「図 3-5」）

地域別に見ると、全体で1位の「西条の酒蔵のある風景」、全体で2位の「東広島の赤瓦屋根の民家群」は、いずれの地区においても高い。

一方、全体で3位の「古墳のある風景」の回答率が最も高かったのは「西条（37.7%）」、続いて「黒瀬（33.3%）」「八本松（32.5%）」の順だった。

9位の「安芸津のじゃがいも畑」の回答率が最高だったのは地元の「安芸津（50.0%）」であったが、6位「正福寺公園の桜」は「高屋（31.6%）」、7位「寺家の竜王山から広がる風景」も「高屋（30.3%）」「八本松（22.9%）」が地元より高かった。（以上「表 3-4」、回答数の寡少な志和・豊栄・河内の地区割合は記載していない。）

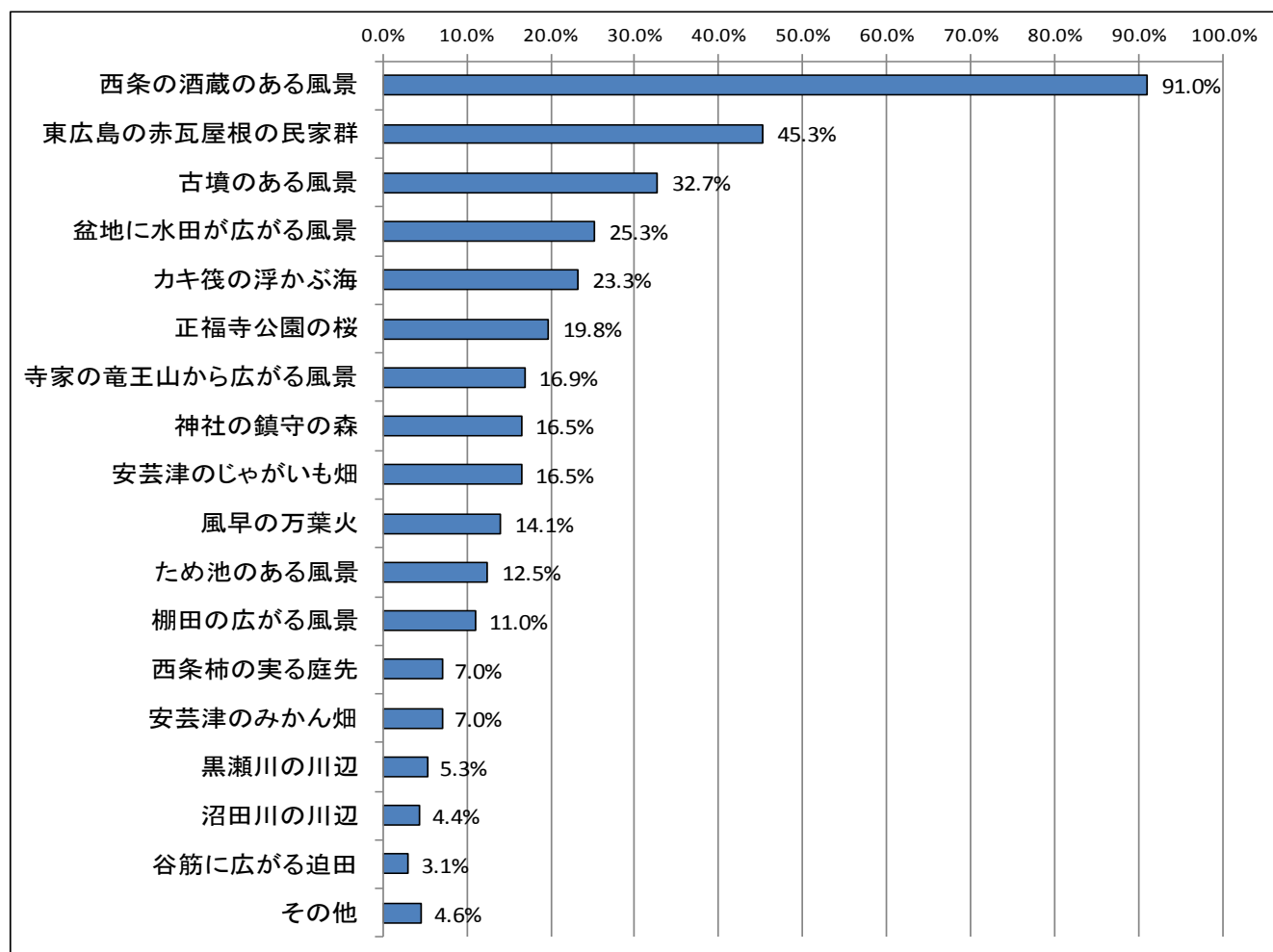


図 3-5 東広島の特徴的な歴史・文化

(複数回答可)

【考察】

住民の歴史文化を感じる風景は、「西条の酒蔵のある風景（91.0%）」が全ての地域において最も高い割合を示すことから、酒蔵通りのイメージが市民全体のシンボルになっていることがわかる。また、「東広島の赤瓦屋根の民家群（45.3%）」、「古墳のある風景（32.7%）」、「盆地に水田が広がる風景（25.3%）」など、各地で見ることができる風景がそれに続いていることは、豊かな田園地帯に点在する赤瓦の民家と、古を感じさせる古墳が本市の共通のイメージであることを示す結果となった。

一方、「正福寺公園の桜」や「寺家の竜王山から広がる風景」は地元より高い地区があることから、居住している地区の近隣の風景以外にも歴史・文化を感じている結果となった。

表 3-4 地区別東広島の特徴的な歴史・文化

(複数回答可)

選択項目	総計		1. 西条		2. 八本松		3. 志和		4. 高屋		5. 黒瀬		6. 福富		7. 豊栄		8. 河内		9. 安芸津		10. その他	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
西条の酒蔵のある風景	414	91.0%	185	93.0%	71	85.5%	2	100.0%	74	97.4%	33	91.7%	12	92.3%	1	100.0%	4	80.0%	15	75.0%	17	85.0%
東広島赤瓦屋根の民家群	206	45.3%	82	41.2%	37	44.6%		0.0%	45	59.2%	14	38.9%	8	61.5%		0.0%	2	40.0%	7	35.0%	11	55.0%
古墳のある風景	149	32.7%	75	37.7%	27	32.5%	1	50.0%	24	31.6%	12	33.3%	3	23.1%		0.0%		0.0%	1	5.0%	6	30.0%
盆地に水田が広がる風景	115	25.3%	52	26.1%	24	28.9%		0.0%	16	21.1%	9	25.0%	4	30.8%		0.0%	1	20.0%	7	35.0%	2	10.0%
カキ筏の浮かぶ海	106	23.3%	46	23.1%	14	16.9%		0.0%	18	23.7%	12	33.3%	2	15.4%		0.0%		0.0%	11	55.0%	3	15.0%
正福寺公園の桜	90	19.8%	31	15.6%	18	21.7%		0.0%	24	31.6%	7	19.4%		0.0%		0.0%	1	20.0%	6	30.0%	3	15.0%
寺家の竜王山から広がる風景	77	16.9%	29	14.6%	19	22.9%		0.0%	23	30.3%	3	8.3%	1	7.7%		0.0%		0.0%	1	5.0%	1	5.0%
神社の鎮守の森	75	16.5%	29	14.6%	14	16.9%	2	100.0%	14	18.4%	7	19.4%	2	15.4%		0.0%	2	40.0%	4	20.0%	1	5.0%
安芸津のじゃがいも畑	75	16.5%	27	13.6%	14	16.9%		0.0%	16	21.1%	7	19.4%		0.0%		0.0%	1	20.0%	10	50.0%		0.0%
風早の万葉火	64	14.1%	23	11.6%	9	10.8%		0.0%	9	11.8%	6	16.7%		0.0%		0.0%		0.0%	14	70.0%	3	15.0%
ため池のある風景	57	12.5%	27	13.6%	12	14.5%	1	50.0%	9	11.8%	5	13.9%	1	7.7%		0.0%		0.0%	2	10.0%		0.0%
棚田の広がる風景	50	11.0%	19	9.5%	8	9.6%		0.0%	7	9.2%	5	13.9%	3	23.1%		0.0%	1	20.0%	3	15.0%	4	20.0%
西条柿の実る庭先	32	7.0%	15	7.5%	6	7.2%		0.0%	7	9.2%	3	8.3%		0.0%		0.0%		0.0%	1	5.0%		0.0%
安芸津のみかん畑	32	7.0%	17	8.5%	3	3.6%		0.0%	6	7.9%	4	11.1%		0.0%		0.0%		0.0%	1	5.0%	1	5.0%
黒瀬川の川辺	24	5.3%	11	5.5%	3	3.6%		0.0%	2	2.6%	6	16.7%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	2	10.0%
沼田川の川辺	20	4.4%	4	2.0%	4	4.8%		0.0%	4	5.3%		0.0%	3	23.1%		0.0%	3	60.0%		0.0%	2	10.0%
谷筋に広がる追田	14	3.1%	3	1.5%	4	4.8%		0.0%	2	2.6%	1	2.8%	2	15.4%		0.0%		0.0%	1	5.0%	1	5.0%
その他	21	4.6%	12	6.0%	1	1.2%		0.0%	5	6.6%		0.0%		0.0%		0.0%	1	20.0%		0.0%	2	10.0%
合計	1600	351.6%	675	339.2%	287	345.8%	6	300.0%	300	394.7%	134	372.2%	41	315.4%	1	100.0%	15	300.0%	84	420.0%	57	285.0%
無記入者数	4	0.9%		0.0%	2	2.4%		0.0%		0.0%	1	2.8%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	5.0%
回答者数(N)	455	100.0%	199	100.0%	83	100.0%	2	100.0%	76	100.0%	36	100.0%	13	100.0%	1	100.0%	5	100.0%	20	100.0%	20	100.0%

④ 市民に関心のある文化財・文化遺産、市民が広報したい東広島の文化財・文化遺産・文化的景観

ア 関心のある文化財・文化遺産

「歴史的な街並み・街道（60.7%）」が最も多く、以下「城・城跡（58.2%）」、「神社仏閣（49.7%）」、「伝統的な建物・古民家（45.9%）」、「遺跡（住居跡・古墳・窯跡等）（41.8%）」、「天然記念物・自然（37.1%）」の順であった。（以上「図 3-6」）

地域別に見ると、全体で1位の「歴史的な街並み・街道」の回答率が最も高かったのは「西条（65.8%）」、続いて「八本松（62.7%）」である。

5位「遺跡（住居跡・古墳・窯跡等）」の回答率が高かったのは「黒瀬（61.1%）」、「安芸津（50.0%）」、「福富（46.2%）」、「高屋（40.8%）」がそれに続くが、全般的に、地区別のばらつきはあまりないといえる。（以上「表 3-5」、回答数の寡少なため、志和・豊栄・河内の地区割合は記載していない。）

【考察】

「歴史的な街並み・街道（60.7%）」が最も多かったのは、東広島ならではの結果といえる。主にここで指しているのは酒蔵通りのことだと思われ、多くの人が酒蔵通りを思い浮かべていることの裏付けともいえる。

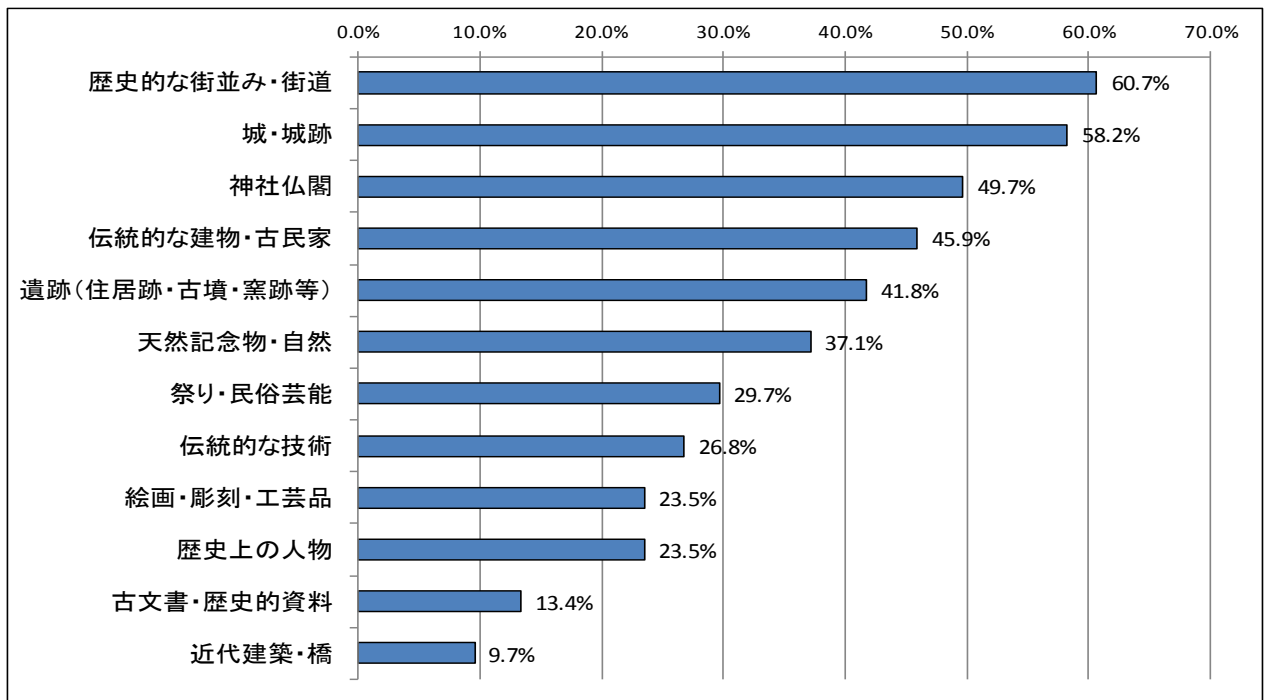


図 3-6 市民の関心のある文化財・文化遺産 (複数回答可)

表 3-5 市民の関心のある文化財・文化遺産 (複数回答可)

選択項目	総計		1. 西条		2. 八本松		3. 志和		4. 高屋		5. 黒瀬		6. 福富		7. 豊栄		8. 河内		9. 安芸津		10. その他	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
歴史的な街並み・街道	276	60.7%	131	65.8%	52	62.7%	1	50.0%	45	59.2%	20	55.6%	4	30.8%		0.0%	1	20.0%	10	50.0%	12	60.0%
城・城跡	265	58.2%	122	61.3%	47	56.6%	1	50.0%	43	56.6%	24	66.7%	7	53.8%	1	100.0%	3	60.0%	11	55.0%	6	30.0%
神社仏閣	226	49.7%	105	52.8%	36	43.4%	2	100.0%	39	51.3%	17	47.2%	7	53.8%		0.0%	3	60.0%	9	45.0%	8	40.0%
伝統的な建物・古民家	209	45.9%	89	44.7%	34	41.0%	1	50.0%	38	50.0%	21	58.3%	4	30.8%		0.0%	1	20.0%	9	45.0%	12	60.0%
遺跡(住居跡・古墳・窯跡等)	190	41.8%	78	39.2%	33	39.8%	2	100.0%	31	40.8%	22	61.1%	6	46.2%		0.0%	2	40.0%	10	50.0%	6	30.0%
天然記念物・自然	169	37.1%	72	36.2%	31	37.3%		0.0%	30	39.5%	17	47.2%	3	23.1%		0.0%	1	20.0%	7	35.0%	8	40.0%
祭り・民俗芸能	135	29.7%	65	32.7%	22	26.5%		0.0%	29	38.2%	11	30.6%	1	7.7%		0.0%	1	20.0%	5	25.0%	1	5.0%
伝統的な技術	122	26.8%	61	30.7%	19	22.9%		0.0%	16	21.1%	12	33.3%	3	23.1%		0.0%	2	40.0%	4	20.0%	5	25.0%
絵画・彫刻・工芸品	107	23.5%	51	25.6%	16	19.3%	1	50.0%	18	23.7%	10	27.8%	3	23.1%		0.0%	1	20.0%	2	10.0%	5	25.0%
歴史上の人物	107	23.5%	43	21.6%	21	25.3%		0.0%	20	26.3%	13	36.1%	1	7.7%		0.0%		0.0%	6	30.0%	3	15.0%
古文書・歴史的資料	61	13.4%	25	12.6%	8	9.6%	1	50.0%	12	15.8%	6	16.7%	1	7.7%		0.0%	3	60.0%	2	10.0%	3	15.0%
近代建築・橋	44	9.7%	23	11.6%	9	10.8%		0.0%	7	9.2%	2	5.6%		0.0%		0.0%		0.0%	2	10.0%	1	5.0%
合計	1911	420.0%	865	434.7%	328	395.2%	9	450.0%	328	431.6%	175	486.1%	40	307.7%	1	100.0%	18	360.0%	77	385.0%	70	350.0%
無記入者数	10	2.2%	2	1.0%	4	4.8%		0.0%	3	3.9%	1	2.8%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%
回答者数(N)	455	100.0%	199	100.0%	83	100.0%	2	100.0%	76	100.0%	36	100.0%	13	100.0%	1	100.0%	5	100.0%	20	100.0%	20	100.0%

「城・城跡 (58.2%)」、「神社仏閣 (49.7%)」、「伝統的な建物・古民家 (45.9%)」、「遺跡(住居跡・古墳・窯跡等) (41.8%)」の関心度が高いのは、市内に数多く存在する国や県、市の指定文化財への関心が高い、または全般的にそういった文化財への関心が高いことが考えられる。前者であることが望ましいが、後者であっても、市内の文化財の周知のやり方次第では関心度をあげていく土台は整っているといえる。

「天然記念物・自然 (37.1%)」はやや低いですが、歴史的なものだけではなく、自然環境的なものへの関心度が住民にもあることが分かる。

地区別では、ばらつきが少なく、市全域に関心があるといえる。

イ 広報したい東広島の文化財・文化遺産・文化的景観

自由記入項目には、以下のようなものがあった。

(ア) 歴史的な街並み・街道

酒蔵通り（多数）、旧山陽道沿いの街並、レンガ煙突、商店街の蛸壺を使った飾り（三津）、白市の町並、志和堀の風景

(イ) 城・城跡

鏡山城跡（割に多数）、高塚城跡、古慈喜城跡、安芸国分寺跡、頭崎城跡、御菌宇城

(ウ) 神社仏閣

福成寺、正福寺、並滝寺、西蓮寺、竹林寺、南泉寺、小倉神社、御建神社、榊山神社、唯のイボ神様

(エ) 伝統的な建物・古民家

旧木原住宅、志和堀の茅葺き民家

(オ) 遺跡（住居跡・古墳・窯跡等）

三ツ城古墳、白鳥古墳、風早の窯

(カ) 天然記念物・自然

昔ながらの山野・田園風景・水田、クロボヤ峡、半夏生の群生地、武士の滝、吾妻子の滝、瀬野八、西条河骨、志和堀のホテル、琵琶の実、河内町入野地区の孟宗竹、水草の咲いた溜め池、田畑の周りの芝桜、三永水源地、古くからの名産果実、清水

(キ) 公園

鏡山公園の樹木・桜、憩いの森公園、龍王山公園、東広島運動公園

(ク) 祭り・民俗芸能

酒祭り、三津祇園祭、志和堀ホテル祭り、とんど、亥の子、東広島花火大会、瀬戸内クルージング

(ケ) 伝統的な技術

酒造り、赤瓦

(コ) 画・彫刻・工芸品

木造薬師如来坐像、八本松八十八石仏、福成寺本堂内厨子及び須弥壇、銅鐘、杉玉

(サ) 歴史上の人物

三浦仙三郎、木原秀三郎（神機隊）、小野 篁

(シ) 古文書・歴史的資料

伊藤ト羊の碑・静学館、白鳥古墳出土品

(ス) 民話・伝承

篁山の伝説、黒瀬に伝わる文芸・民話等

(セ) 近代建築・橋

深山変電所、中の峠隧道、福富ダム

(ソ) その他

国際的な市を目指している東広島の現在、学園都市

【考察】

酒蔵通りや赤瓦などの地域固有の景観、城・神社仏閣・天然記念物等の文化財に加え、とんど・祇園祭・ホテル祭りなどの祭り・民俗芸能(ク)や、三浦仙三郎等の歴史上の人物(サ)にも記載がある。

こうした広報したい文化財・文化遺産・文化的景観に、郷土愛が深く根付いているものと考えられる。

⑤ 文化財・文化遺産の保存や活用のために、自ら協力できる事項

「イベント・祭りへの参加 (57.1%)」が突出して多く、以下「地域活動への参加 (38.7%)」、「保全のための寄付 (14.3%)」、「SNS等で情報発信 (10.3%)」の順であった。

「その他」の中には、ふるさと納税・寄付、文化の子どもへの紹介、草刈り等の作業、発信された情報を活かす、文化遺産のある地域へ出かけるなどであった。(以上「図 3-7」)

地域別に見ると、全体1位の「イベント・祭りへの参加」の回答率が最も高かったのは「西条(60.3%)」であり、逆に最も低かった地区でも「安芸津 (45.0%)」であった。

また、2位「地域活動への参加」については、「高屋(47.4%)」、「八本松(47.0%)」と高かったのに対し、「西条 (30.7%)」は最も低い比率だった。逆に、4位の「SNS等で情報発信」では、「西条 (14.1%)」の回答率が最も高かった。(以上「表 3-6」、回答数が寡少なため志和・豊栄・河内の地区割合は記載していない。)

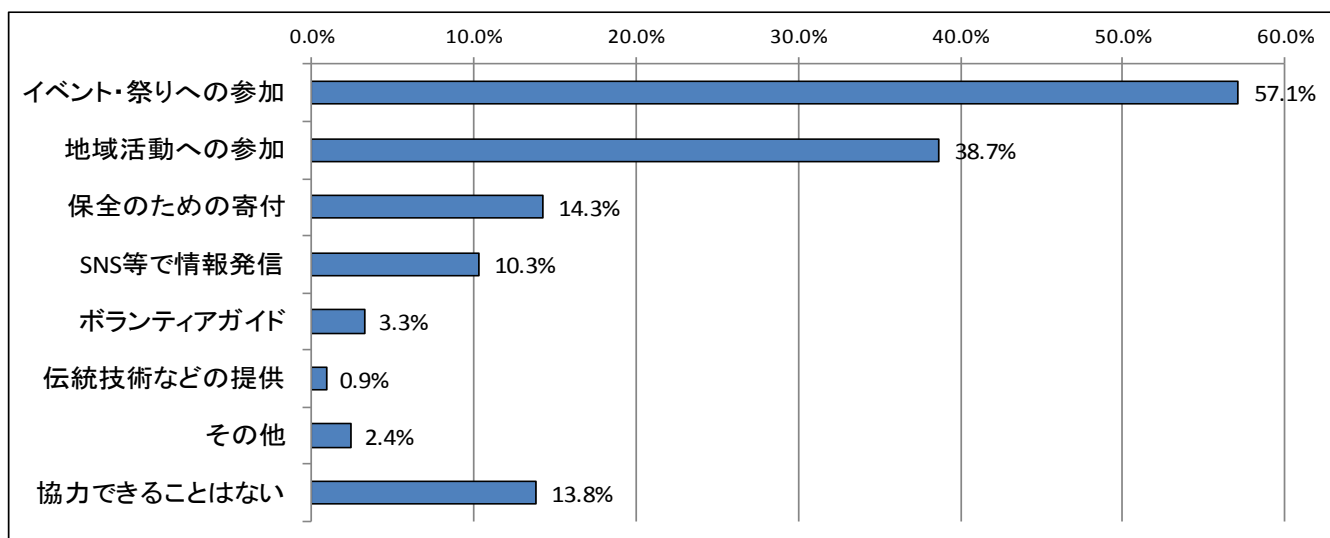


図 3-7 文化財・文化遺産の保存や活用の協力事項

(複数回答可)

表 3-6 文化財・文化遺産の保存や活用の協力事項

(複数回答可)

選択項目	総計		1. 西条		2. 八本松		3. 志和		4. 高屋		5. 黒瀬		6. 福富		7. 豊栄		8. 河内		9. 安芸津		10. その他	
	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率	回答数	比率
イベント・祭りへの参加	260	57.1%	120	60.3%	45	54.2%	2	100.0%	43	56.6%	20	55.6%	7	53.8%		0.0%	2	40.0%	9	45.0%	12	60.0%
地域活動への参加	176	38.7%	61	30.7%	39	47.0%	1	50.0%	36	47.4%	14	38.9%	5	38.5%	1	100.0%	3	60.0%	8	40.0%	8	40.0%
保全のための寄付	65	14.3%	31	15.6%	13	15.7%		0.0%	9	11.8%	5	13.9%	3	23.1%		0.0%	1	20.0%	2	10.0%	1	5.0%
SNS等で情報発信	47	10.3%	28	14.1%	4	4.8%	1	50.0%	7	9.2%	2	5.6%	1	7.7%		0.0%		0.0%	1	5.0%	3	15.0%
ボランティアガイド	15	3.3%	8	4.0%		0.0%		0.0%	4	5.3%	1	2.8%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	2	10.0%
伝統技術などの提供	4	0.9%	2	1.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%	1	7.7%		0.0%		0.0%	1	5.0%		0.0%
その他	11	2.4%	4	2.0%	1	1.2%		0.0%	2	2.6%	2	5.6%		0.0%		0.0%	1	20.0%	1	5.0%		0.0%
協力できることはない	63	13.8%	24	12.1%	12	14.5%		0.0%	11	14.5%	6	16.7%	2	15.4%		0.0%		0.0%	5	25.0%	3	15.0%
合計	641	140.9%	278	139.7%	114	137.3%	4	200.0%	112	147.4%	50	138.9%	19	146.2%	1	100.0%	7	140.0%	27	135.0%	29	145.0%
無記入者数	38	8.4%	19	9.5%	6	7.2%		0.0%	6	7.9%	4	11.1%		0.0%		0.0%	1	20.0%	2	10.0%		0.0%
回答者数(N)	455	100.0%	199	100.0%	83	100.0%	2	100.0%	76	100.0%	36	100.0%	13	100.0%	1	100.0%	5	100.0%	20	100.0%	20	100.0%

【考察】

「イベント・祭りへの参加（57.1%）」が突出して多いことは、これからの文化財保存や活用にあたって、考えていかなければならないことである。住民が文化財について楽しみながら学び、保存活用に気軽に参加出来る場が今後必要とされていると、この結果からいえる。

次いで「地域活動への参加（38.7%）」が多いことから、住民が地域での様々な活動に参加していくことも重要であることが分かる。市が主催するイベントだけでなく、地域活動を支援していくことも、これから市政に求められることではないだろうか。

(4) 総括

今回のアンケート調査は、地域の人口割に応じて、無作為に抽出した 18 歳以上の東広島市民 1000 人に送付し行った。送付数 1,000 通に対し 455 通の回答を得、回答率は 45.5%だった。

回答率は「福富」が最も高く 92.9%（14 人中 13 人が回答）、以下「八本松」55.3%、「西条」51.4%の順であった。また、「志和」5.1%、「豊栄」5.0%と回答率は少なかった。

回答率が低い地域があった理由としては、「回答を忘れていた」、「アンケートの内容に対して特に興味がなかった」等であった。一概に回答率がすくない地域の住民が、文化財への関心が総じて薄いとはいえないが、回答率が少ないのも事実であるので、アンケート調査の内容の検討とともに、こういった地域の住民の文化財への関心を高めていくことが重要である。

調査の各設問の結果から、東広島市民のなかで歴史文化に関心がある人々は、西条の酒蔵通りやお酒に関する文化へ目を向けている割合が高いと分かった。また、市民が歴史文化に触れる機会が「観光」であることも割合として高かった。

以上から、他県や外国からの観光客に酒文化や酒蔵通りだけでなく、総合的に東広島の文化財を「観光資源」として活用し、その魅力を発信していくことが重要である。そして、それが東広島市民の他の文化財への関心を、相乗効果として高めていけるのではないかと考えられる。

また文化財活用場として、地域に市民が歴史文化に触れられる場を創出していくことも重要である。その一環として、市内に博物館等を設置することが挙げられる。他にも、各地の文化財との連携

を図るルートづくりなど行っていく必要がある。

今回の住民意識調査で分かったことをまとめると、市内の文化財を「観光資源」として活用していくこと、そして博物館等の設置や各地文化財との連携を図っていくなどの、歴史文化に触れる場づくりの創出が重要といえる。